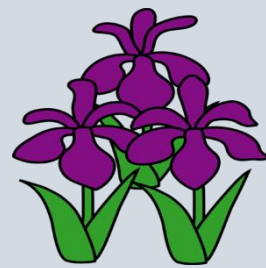


かけはし



発行：峡南教育事務所地域教育支援担当

所在地：南巨摩郡富士川町鵜沢 771-2

TEL：0556-22-8154

FAX：0556-22-8144

HPでもご覧になれます

URL：<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

平成25年度

所長あいさつ

峡南教育事務所 所長 山本 純司

◆かけはし 117号の内容◆

- 1p 所長あいさつ
- 2p 新生 ことぶき勸学院
- 3p シリーズ 峡南地域の祭事探訪
- 4p 身延高校「手話パフォーマンス」
平成25年度の事務所紹介



平成25年度が始まり、何かしらあわただしい中、合同庁舎の周囲に目を向けると、いつしか大法師山の桜も葉桜となり、周囲の山並みは淡い彩色で霞み柔らかな日差しを浴びながら生命の息吹を力強く感じる季節になってきました。

新しい芸術文化の創造を促すことを狙いとした国内最大級の文化イベントです。

その最中、5月には「富士山」の世界文化遺産登録が事実上内定しました。その登録基準として「文化的伝統の伝承」「普遍的意義を持つ芸術作品、文学作品との関連」が挙げられており、そこに生きる者として、人々の生活や営みの文化に関心を高めながら、地域社会の個性を高めていきたいものだと思います。

教育事務所も非常勤職員を含めて14名の職員でスタートいたしました。それぞれ総務・地域教育支援・学校教育の業務を担い、地域の教育にかかわる県の出先機関として役割を担っております。やまなしの教育振興プランの基本理念「ふるさとを愛し、世界に通じるひとづくり」のもと、「個性を生かし、生きる力をはぐくむやまなし人づくり」「豊かで潤いがあり、明るく活力に満ちたやまなし社会づくり」を目標に業務を進めていきますのでよろしくお願いたします。

支え合い、認め合う 地域づくりを目指して

昨年も述べましたが、中央教育審議会答申である「知の循環型社会の構築を旨として」では、「各個人が、自らのニーズに基づき学習した成果を社会に還元し、社会全体の持続的な教育力の向上に貢献するなどの『知の循環型社会』を構築することは、持続可能な社会基盤を構築し豊かなコミュニティの構築

に貢献するものである」と述べております。あらゆる社会的な資産

(人・もの・こと)を融合し、実社会の中での経験や知恵を出し合い、相互に支え合い、相互に認め合えるような、それぞれのニーズにあった教育環境を構築していく必要があります、そのことが文化を産み、文化を継承していくこととなると考えます。学社融合とか学社連携といわれて久しいわけですが、あらためて「心と心のつながり」をつくる「かけはし」として教育事務所があるということ肝に銘じて、業務を推進していきたいと考えます。

さて、本年1月12日のオープニングセレモニーと19日の和太鼓の祭典(富士川町)、内船歌舞伎(南部町)の公演などを皮切りに「国民文化祭」が303日間にわたって本県で開催されております。これは、全国各地の文化活動を全国的規模で発表し、競演し、交流する場を提供することにより、国民の文化活動への参加の機運を高め、

あらためてまして1年間よろしくお願申し上げます。

新生 ことぶき勸学院のスタート

平成25年度入学式

山梨県における生涯学習の基盤となっている「山梨ことぶき勸学院」の入学式が、今年も4月17日にコラニー文化ホール（甲府市）で盛大に行われました。

山梨ことぶき勸学院は、今年度から組織改編が行われ、大学院の廃止とともに運営主体が県教育委員会から「やまなし文化学習協会」への業務委託へと変更され、これまで県下9学園での事業展開が2拠点(甲府・都留)6教室へと集約されることとなりました。

事業仕分けや財政面などからやむを得ない措置であったとはいえ、参加する方々や勸学院そのものが持つ大きな役割や大切な意義に少なからず影響を与えるのではないかという危惧の声がかけられました。

しかしながら、4月17日の入学式当日には、新しい運営や組織をふまえて、これまでと同じ、あるいはそれ以上の意欲に満ちた方々が、多数コラニー文化ホールに集まりました。

とりわけ峡南教室(旧南巨摩学園・旧西八代学園)に参加される方はあらたに44人を数え、その積極的で生き生きとした姿は、先の懸念を吹き飛ばすのに十分なものでした。

新入生代表の誓いの言葉を述べたのは、その峡南教室の保坂修一さんで、力強い口調で固い決意が示されました。また、それに続く学院歌斉唱では、やはり峡南教室の高野さち子さんが優雅で気品ある指揮をしました。

このように新しいスタートを切った山梨ことぶき勸学院は、県下各6教室で一斉に開講の日を迎え、峡南教室では4月19日に2年生、23日に1年生のみなさんが、それぞれ笑顔と期待に満ちた新たな取り組みをはじめました。



瀧田武彦学院長の式辞



保坂修一さんの
誓いの言葉



高野さち子さんの指揮

ことぶき勸学院大学院の閉校式

入学式に先立ち、去る3月14日(木)には同じコラニー文化ホールにおいて、「山梨ことぶき勸学院大学院」の閉校式が行われました。

平成元年に開校した大学院は、高齢者の生涯学習の拠点として平成24年度末までに4,182人も卒業生を送り出し、まさに山梨の生涯教育のシンボルとして大きな功績を残してきました。

大学院は、修業年限2年間、勸学院における2年間の学習をさらに発展させ自主的により深く学ぶ場として、充実した生きがいの創造と地域文化の振興の担い手としての資質を高めることを目指して運営されてきました。

甲府学園(4コース:郷土史、ふるさと民俗、文芸、くらしと環境)、都留学園(1コース:文芸・郷土)の2校が設置され、大学院生となった方々は、専攻コースに従って専門性の高い学習を進めると同時に、個人やグループで自主研究を行い、その成果をまとめた卒業レポート「年輪」を発表してきました。

閉校式では、勸学院の数野強学院長が大学院事務局に掲げてあった校名板を、県教委の小林久教育委員長に返納して、24年間の歴史に幕を閉じました。また、あいさつでは、学院長は大学院の閉校の寂しさを述べ、大学院生代表の中澤昭彦さんは今後の大学院の復活を熱望していました。

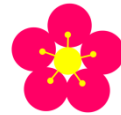
同日には、勸学院と大学院の卒業式が行われ、併せて454名の方々が晴れの卒業の日を迎えました。



大学院の校名板が、小林 久 山梨
県教育委員長に返納されました



満開の菜の花に彩られた天満宮祭



富士川町天神中條にある「天神中條天満宮」は、菅原道真公を祭神とする神社です。通称「お天神さん」として親しまれ、学問の神として人々の崇敬を集めています。また、和歌・連歌の神様、芸能の神様、書道の神様、厄除けの神様でもあると言われています。



今年も天満宮周辺が満開の菜の花畑で彩られた3月24日、氏子総代会（名執初男会長）主催による「天神中條天満宮例祭」が、好天に恵まれた中、盛大に行われました。この祭りは、もともと3月25日に行われていました。

道真公が生まれたのが6月25日、太宰府への左遷の命が下ったのが1月25日、夫人の宣来子（のぶきこ）氏が亡くなったのが2月25日というわけで、道真公が、25日に縁の深い方ということになっているからです。しかし、近年は諸般の事情により祭典の日が、3月の第4日曜日になっています。

当日は、午前9時30分に子ども神輿も帯同する中で、地区公民館を参進行列がスタートし、露天商が並ぶ参道から天満宮の境内に入りました。

境内の拝殿で例祭の神事や神社関係者、招待者による玉串奉典が執り行われた後、神楽殿で増穂中学校2年生女子生徒5名による「浦安の舞」が奉納されました。この舞いは、昭和15年11月10日、日本全国の神社で行われた紀元2600年を祝賀する奉祝祭において、神慮を慰め奉るために一斉に奉奏された神前神楽舞です。



それ以来、歌詞が平和を祈る心を歌い、舞いが美しく曲が良いために、いまだに諸々の神社で奉奏されています。舞姫を演じた女子生徒たちは、この日に向けて3月に入り週2～3回練習を重ねてきました。その成果があらわれ、本番では大勢の見物客の前で、優雅な舞いを披露してくれました。ある生徒は、「とても緊張したけれど、練習通りに上手に踊れたので、とても楽しかったです」と達成感に満ちた表情で答えてくれました。午後からは、南アルプス市古市場にある「若宮太々神楽敬神会」のメンバーが、「神楽」を奉納し、祭りを大いに盛り上げていました。



絆を深めて、支え合う社会を築こう



3.11 東日本大震災 2 年後の
前日にあたる平成 25 年 3 月
10 日、身延町総合文化会館

で、身延山高校の手話コミュニケーション部が国文祭提案事業「手話パフォーマンスフェスタ 2013」を開催しました。これは、障害者との絆を深め、思いやりをもって互いに支え合う社会を目指した事業です。

同校の小澤伸英教諭は、3 年生 27 人を引率して昨年 12 月に気仙沼にて、慰霊法要、唱題行脚、ほうとうの炊き出しボランティア、手話の歌と雅楽の披露などを行いました。自身も 3 回現地入りする中で、聴覚障害者の被害の様子を知り、山梨でも障害者救済のために貢献できないかと思



シンポジウム

いこの事業の開催

身延山高校 手話コミュニケーション部



大野山保育園児との手話コーラス

を決意し、山梨県や身延町の後援を受けつつ実施に至りました。

ドキュメンタリー映画上映やシンポジウムでは、聴覚障害者への情報格差の問題点を提示しつつ、情報障害で障害者が被災しないような社会を構築する方法を探りました。後半のパフォーマンスでは、大野山保育園児や県立豊学校の生徒らとの合同手話コーラスをはじめ、国文祭イメージソングを歌うチャイルドフードや立正大学手話サークルのステージも行われました。障害者と健常者が共に手を取って生きる共生社会の実現への願いが込められた事業となりました。

平成25年度 峡南教育事務所のご紹介

24 年度末の人事異動により、4 人の新メンバーを迎え、新たな気持ちで業務をスタートしました。「総務スタッフ」「地域教育支援スタッフ」「学校教育スタッフ」の 3 部門で、子どもたちの健やかな成長と地域の教育力の向上を支援します。

どうぞよろしくお願ひします。

教育事務所の主な業務のご案内

- 町教育委員会の指導・助言及び町教育委員会との協力
- 町立学校の教育環境整備についての助言
- 学校・家庭・地域社会の連携の推進
- 教育行政に関する相談及び子どもの教育相談
- 教育に関する広聴及び広報
- 県立高等学校教育改革に関する連絡調整
- 県費負担教職員の人事についての連絡調整
- 県費負担教職員の給与、旅費、児童手当、研修
- 社会教育、文化財
- 山梨ことぶき勸学院運営の支援
- 学校教育の指導助言
- 学齢児童生徒の就学指導
- 教科書採択事務の指導助言
- 学校保健、給食、安全指導

峡南教育事務所の職員一覧		新任
所長	山本 純司	
次長	清水 勇	
総務	副主査	野中 義輝
	主任	清水美紀子 ○
	主事	古屋ひろ美
地域教育支援	主幹・社会教育主事	青柳 和彦
	主幹・社会教育主事	望月 一夫
	主幹	落合 政久 ○
学校教育	主幹・指導主事	市川 司
	指導主事	笠井 安秀
	指導主事	玉島 正隆 ○
スクール・ソーシャル・ワーカー		岡部美登志
		土橋 士郎
		中野 宏子 ○

☺情報提供のお願い☺

峡南地域教育情報紙「かけはし」は、学校と家庭と地域との絆を深め、社会教育と地域教育の充実発展を目指すものです。皆様からの情報をもとに紙面を作ってまいりますので、特色ある取り組みや諸機関の連携事業など、ぜひご紹介ください。ご愛読、ご支援をよろしくお願ひします。